

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1. 理念の共有						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービス開始以前からの理念であるが法人の理念に基づき、事業所独自の理念をつくりあげている。理念は掲示しており、いつも目にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員も理念を意識しており、会議での話し合いや申し送り事項に反映して実践している。また、理念を具現化するための基本方針を職員で話し合って作り、取り組んでいる。		
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営理念は重要事項説明書に明記し、入居の際に説明を行っている。また玄関前に装飾を兼ねて掲示している。町内会の回覧板を利用したり、運営推進会議や民生委員を通じ地域の方への理解を得る取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	園芸活動を通じ、種や苗を含めいただいたり、相談したり、交流の出来る機会を持っている。近隣施設との交流も行い、行事の際には出掛けたり招いたりすることもある。		
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の草取りや清掃活動、敬老会等に参加し、コミュニケーションを図れるよう心掛けている。	○	町内会主催の清掃活動だけでなく、委員会主催の缶拾いもあるようなので今後参加させていただく。
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じた、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員を対象とした認知症サポーター養成講座を開催し、地域の高齢者に対してどんな支援が出来るのかを提示した。民生委員や包括支援センター職員とも連携して取り組んでいる。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に周知している他、家族にも説明を行い理解と協力を得ている。改善が必要とされるべき点についてはその都度対応している。		
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は隔月で開催しており、運営状況(入退去、活動)を報告し、情報や意見、助言を受けている。議事録を作成し、会議等で検討されるサービスの向上につながるよう努力している。		
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターと連携し「認知症サポーター養成講座」を地域で開催したり、市や県から講演の要請があれば応じている。千葉市グループホーム連絡会に参加し行政との懇談会を定期的に開催している他、不明な点や相談は適宜電話で相談し、必要に応じて直接市役所へ出向くようにしている。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法律や介護保険制度の見直しにより必須となった権利擁護事業を知っており、必要に応じて活用できるように支援している。地域での勉強会や講演にも参加し、理解を深めている。区役所のケースワーカーとも連絡を取りながら利用者の福祉について相談している。		
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法を理解しており、事業所内での虐待は絶対あってならないことであり、見過ごされることもないように注意をし、防止に努めている。身体拘束についての研修に参加したり、ホーム内で勉強会を実施している。		
4. 理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約の際は十分に注意を払い利用者や家族等の理解・納得を得るまで説明をしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、入居者の意見を聞く姿勢を持ち、ストレスを解消するような働き掛け(外出や話の傾聴等)を行い、食事のリクエストや行事、外出先の選定に反映させている。		
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時や電話の際、運営推進会議等で報告する他、緊急時や体調不良時等に随時報告をしている。毎月の請求書送付時には小遣いの明細を送り、使途を報告したり、ホームでの各々の暮らしぶりが分かるような便りも発送している。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時等に気軽に話せる雰囲気作りを心掛けたり、家族会での話も代表より伺い、運営に反映させるようにしている。		
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全員出席の職員会議を毎月開催し、職員の意見や要望を聞くようにしている。又、管理者が適宜面接を行っている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	随時状況に応じて話し合いや勤務の調整を行っている。又、他部署とも連携を取りながら緊急時にも対応できる体制作りをしている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員採用時も出来るだけ長く勤務できる方を採用し、異動も出来るだけないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・非常勤を問わず、職員の職種や経験に応じて研修の機会を提供し、職員のケアの質の向上に努めている。他のグループホームを見学し、学ぶ機会を作ったり、法人内での勉強会にも出席している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通じて地域交流会を行い、地域での連携を図っている。情報交換・助言を得たり、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を活かし、サービスの質の向上に取り組んでいる。法人内の別のグループホームの入居者や職員との交流も図っている。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の休憩時間や場所をきちんと確保し、心身の休息が出来るように配慮している。シフト作成時も無理のないように配慮している。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を行い、定期的に振り返る機会や新たな目標設定を行えるようにしている。どの様に評価されているか職員にもフィードバックする。月間の目標を設定して、日々目標を持って働けるように配慮している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ず本人と面接を行い、本人自身とよく話しをする時間を設けている。お話の中から、本人の主訴を把握し、表面に表れない部分も汲み取れるようアプローチする。		
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者と面接を行う前に、あらかじめ生活歴や現在の暮らしぶりを伺い、家族として利用者が望む暮らしについてどの様に考えているかを確認し支援計画に活かしている。入居前にアセスメントを行い、どのように支援していくかを家族に提示し、家族の要望について確認を行う。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話でも見学時の相談でも、まず話をお聞きし本人と家族の意向を把握し、その内容に応じたアドバイスをしている。必要なら利用を勧めている。担当のケアマネからも必ず話を聞くようにして、他のサービス等も含めてホーム利用が適切かどうかを判断する。		
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その場の雰囲気に馴染んでいただけることを優先し、安心して生活できるよう、利用者本人の能力や個性を把握しながら徐々にサービスを提供する。年齢や性格に合わせて話の合いそうな方と食事の席を近くにしたり、共にレクを行ったり、趣味やこれまでの経験を考慮して仲間作りが出来るように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活する者として、生活場面において学ばせていただいたり、支援が必要な場面においては職員が助けるようにし、共に支え合えるような関係を心掛けている。理念においても掲げている。		
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	一緒に外出する機会を提供したり、通院介助で協力を得たり、買物や外出等出来るだけ家族との時間を作っていたりすることで、家族にも支援していただいている。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出する機会を作っていたり、外出デーを企画し参加を促している。本人の家族への要望を代弁することもある。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の会話の中で本人が望んでいることの把握に努め、要望に応えられるように支援する。又、家族が併設施設に居る方は、交流が保てるように訪問したり招いたりして配慮している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士がお互いに助け合ったり、声を掛け合ったり仲の良い利用者同士が話をする場面も日常的に見られる。又、トラブルにならないよう見守っている。		
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設や病院に移られた方にも時折会いに行ったり、入居者をお連れして面会へ出たりと、支障のないようおつきあいをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
<b>1. 一人ひとりの把握</b>						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を把握するように努め、それが困難な場合は家族の協力も得ながら汲み取るようにしている。		
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の書類や本人、家族からの情報を基にセンター方式のアセスメントシートの一部を家族に記入していただき、本人からのヒアリングも行って把握に努めている。		
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人らしさを大切に、又、心身の状態も日々把握出来るように表情や言動を観察するよう努めている。「できること」「わかること」の状態を把握し、適切な支援が出来るよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に1度ケアプラン会議を行い、本人や家族の要望や職員の意見を取り入れながら介護計画を作成している。又、それまでの計画についての評価(モニタリング)を報告し、家族にも意見を求めて次回のケアプランに反映させるようにしている。		
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画には実施期間を明記し、その期間をもって見直しを図っている。状態変化によってはその都度計画の修正を行っている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの様子や変化を個別に具体的に記録し、介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設されている施設等にも足を運び、本人や家族の要望に応じ柔軟な支援(ショートスティ利用や訪問歯科、リハビリ、買物、クラブへの参加等)を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の話し相手から演芸などまで、幅広いボランティアの受け入れをしており、将棋の相手をしてもらうのを入居者は楽しみにしている。また民生委員の意見や助言を得たり、警察、消防等とも協力しながら支援している。		
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ホーム内での対処が困難になってきた場合、本人や家族の意向に沿って、他のケアマネジャーや事業所と話し合いサービスを利用するための支援をしている。		
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターは同じ法人で運営されている為、協力体制が出来ており、情報交換や助言をもらっている。又、運営推進会議にも参加している。		
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医に受診し適切な医療を受けている。		
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が認知症に知見の深い医師であり、随時指示や助言を得られている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置しており、不在時や緊急時でも併設の特養ホームの看護職員に随時相談しながら健康管理や対応についての助言を得ることが出来る。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院している医療機関に出向き、主治医や家族と相談し、出来るだけ早期に退院出来るように努めている。又、退院へ向けての受け入れ態勢を整えるように調整している。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人や家族にホームとしての看取りの考え方を指針として提示し、重度化した場合は早めに家族やかかりつけ医に相談し、全員で方針を共有している。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日々の利用者の心身の状態を把握し、かかりつけ医や家族と共に全員で取り組んでいる。又、ホームでの勉強会を行い、今後に備えている。		
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族と共に十分な話し合いの元に納得され、細部まで情報提供を行いダメージが少なく済むように配慮している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
1. その人らしい暮らしの支援						
(1)一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの個性やプライバシーに配慮した声掛けや対応を行っている。個人情報についても、入居者の前で記載することもあがるが、扱いには注意している。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の希望を叶えることが出来るよう自然な形で働き掛け、一人ひとりの能力に合わせ、出来ることを引き出し自ら発揮していただけるよう支援している。		



項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	束縛や強制をすることなく、入居者一人ひとりの個性や主張を大切に自由な暮らしが出来るように努めている。	○	全ての利用者に対応しきれていないので工夫していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望に合わせて自由に服を選んでいただいている。選べない方にはワンパターンにならないように配慮している。訪問理・美容は月に各1回程度来てもらい、本人の希望に合わせて実施している。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る際に入居者の希望を聞き、作る楽しみと食べる楽しみを味わえるように入居者・職員と一緒にやっている。食事作りの際は材料を洗ったり、切ったりしてもらう他、毎食時に配膳や後片付けも共に行っている。		
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やたばこを楽しむ方は現在居ないが、以前は喫煙や飲酒を楽しむ方が居たので対応していた。飲み物やおやつ等は本人の嗜好を重視して好きな物を提供出来るように揃えたり、一緒に買い物に行ったりしている。	○	時には手作りおやつと一緒に作り、楽しんでいただいているが、回数を増やしていきたい。
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンによりプライバシーを守り、排泄の失敗を減らし、オムツの使用を出来るだけ避け、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯は決まっている中で行っているが、気のあった方同士でゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。	○	曜日、時間を固定せず自由に入浴を楽しむことが出来るよう支援していきたい。
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じてゆっくりと休息したり、眠れるようにしている。又、必要に応じて熟睡出来るよう就寝前に足浴を行っている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの出来ること、出来ないことを把握し、能力に応じた役割を持っていただくよう支援している。又、季節に合った行事や家族との外出等楽しめるよう支援している。	○	出来るだけ家族と一緒に過ごす時間を作り、レクリエーション等により皆で楽しめるようにしたい。
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力によってお金を所持したり、買い物や外出時に使えるように支援している。		
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族や担当職員との外出や買い物、散歩、季節感を味わうことが出来るようドライブ等を心掛けている。		
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に2回以上、家族にも参加していただき入居者と一緒に楽しんでいただける外出デーを企画し実施している。		
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望により自由に電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問出来、居室でプライベートな時間を過ごすことが出来るよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修や勉強会に参加することにより、身体拘束について認識しており、参加していない職員についても情報を共有するようにして身体拘束のないケアを行っている。又、言葉で傷つけることのないように管理者から注意を促している。		
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常時入居者の所在を確認し、拘束性のない生活を送れるよう配慮している。		
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーを配慮しつつ、常時入居者の所在や様子を確認し、入居者の安全に配慮している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの能力に応じて、危険な物や薬等は鍵のかかる保管場所で管理し、事故防止に努めている。		
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急対応マニュアルを作成し、看護師による勉強会も行っている。ひやりハット報告書の記入により再発防止に心掛け、事故の際は事故報告書を作成し再発防止に努めている。事故防止委員会を設け、一人ひとりのリスクの可能性について検討している。		
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修や勉強会を定期的に行い、全ての職員がすぐに対応出来るように備えている。又、消防署や近隣施設の救命講習を受けに行ったり、ホームにAEDを設置しており、緊急時に対応出来るようにしている。		
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回以上の避難訓練を行っており、併設事業所の応援を受けたり、近隣事業所の防災訓練に相互参加する等、協力を得られるような体制作りを行っている。		
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や家族会等で一人ひとりに起こり得るリスクについて説明し、安心して暮らせるように支援している。転倒時の骨折防止の為にベルトやパンツ等を作成し、家族の協力も得ながら対応策を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃より一人ひとりの体調の変化や異変が生じた時には速やかに対応し、記録に残し情報を共有出来るように朝と夕方に申し送りを実施している。		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの能力により服薬の援助や管理を行い、薬の目的・副作用・用法用量等を理解しており、症状の変化に注意を払っている。必要に応じて、医師や薬剤師に相談や助言を得ている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘解消のために、水分補給やおやつ作りの工夫、運動、ウォシュレットの利用や腹部マッサージをすることにより刺激を与え、排便を促すように取り組んでいる。		
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを実施し、口腔内の清潔を保持している。又、口腔内や義歯等の異変に気付いた時には、訪問歯科を受診し、対応している。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師からの指示がある場合の摂取量の調整、本人の好み等を勘案し、一人ひとりに対応出来るようにしている。摂取量や水分量は毎食時確認しており、少ない場合は回数を増やして摂取してもらったり、代替りの物を提供したりして対応している。		
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防マニュアルがあり、日頃から入居者、職員共に手洗いやうがいを行って励行している。ノロウイルスの予防の為に冬期は塩素剤を用いた消毒等も行っている。		
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具を使用した後にはきちんと衛生管理を行い、消毒や乾燥機を使用している。食材も新鮮で安全なものを使用し、冷蔵庫の中等も日頃清潔に管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1)居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には季節に合った草花を植え、手作りのポストを置き、家庭的な雰囲気でお迎え出来るように工夫している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、食堂等には手作りのカレンダーや写真、装飾品を飾り、馴染みやすい環境を作り、季節や行事に合わせた装飾も施している。その他の場所も清潔に安心して使用出来るようにしている。日差しの強い時はロールカーテンを使用したり、光の加減を調節している。		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のソファや廊下に備え付けの椅子が設置しており、リビングの畳コーナーにはコタツもあり、親しい人同士で自由な時間を持つことが出来る。		
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具やベッドを使用し、その人らしい生活が出来ている。又、気持ちよく過ごせるよう掃除を利用者と共に行っている。		
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	暖かい時間に換気を行い、職員と入居者での体感温度等を考慮し、入居者の立場に立った温度調節を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	幅広い廊下には、途中で疲れた時に休めるような椅子が備えてある。又、車椅子の方でも自力歩行の方でも安全に過ごせるようなゆったりとした作りになっている。トイレや階段にも手すりが設置しており、一人ひとりの能力に応じ必要とする支援を行っている。		
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの出来ること、出来ないこと、理解力等を把握し、必要な時に必要な支援が出来るように配慮し安心して暮らせるように支援している。		
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭やテラス等に季節の草花を飾り、水やりや花の観賞をしていただき、外には畑もあり入居者と共に四季折々の野菜の栽培を行い、園芸活動を行っている。		

(様式1)

## 自己評価票

項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>		
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる
		①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある
		①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている
		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている
		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている
		①ほぼ全ての利用者がころへ出かけている ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている
		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている
		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています
		①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている
		①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98		職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない